

2023年12月22日

株式会社ダイドーリミテッド
代表取締役社長 鍋割 幸 様

株式会社ストラテジックキャピタル
代表取締役 丸木 強



オフィスビルの取得について

ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、貴社は2023年12月21日に「連結子会社における固定資産の取得に関するお知らせ」にてオフィスビルを取得することを発表されました。弊社は貴社への投資を開始して以来、貴社の株主価値の向上に向けて、様々な提案をして参りました。とりわけ、不動産賃貸事業で資本コスト以上のリターンを達成することは理論的に不可能であり、不動産の追加取得は見送るべきであること、また、本社事務所として自社ビルを保有する必要はなく、賃料を支払った上で事業から資本コスト以上のリターンを目指すべきであること、を繰り返しお伝えして参りました。そのため、今般貴社が、オフィスビルの取得を決定されたことは、非常に残念でなりません。

貴社は長らく、本業であるアパレル事業の赤字を不動産賃貸収入で補填する経営を漫然と続けてきました。弊社は、会社の存続を不動産賃料に頼るのではなく、アパレル事業を再建することで、資本コスト以上のリターンを生む経営方針に転換することを繰り返し要請して参りました。

現在、貴社は中期計画を策定中であり、不動産賃貸業で資本コスト以上のリターンを実現することは不可能であることを認識しておられるはずですが、それにもかかわらず、筆頭株主である弊社の要請を無視し、オフィスビルの取得を決めたことは、現経営陣がアパレル事業を再建させる自信がないため、不動産賃料収入で生き永らえらるとの意図を自ら白日の下にさらされたものと考えざるを得ません。貴社の経営陣が、退任まで、1円ストック・オプションを含めた既得権益の継続を考えていたことと同様に、株主利益を無視した決定であると弊社は考えております。

不動産の取得は早々に決定した一方、弊社から要請している「資本コスト以上のリターンを目標とした中期計画の策定」、「ストック・オプション制度の改定」、「自己株式の消却」等、株主価値の向上に資する施策は未だに何もご対応いただいております。これらを可及的速やかに実行していただくことを再度お願いいたします。

経営陣・取締役会が、株主価値を棄損させることを認識しながら、株主の利益を軽視して経営者の個人的な利益のみを考えていることを、弊社は株主として大いに恥じております。

以上